



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

人生の夏休み

金沢赤十字病院 内科 濱口えりか

寒くて長い冬の後、穏やかな春をゆっくり満喫する間もなく今年も暑い夏に突入しました。草木の緑が目には鮮やかなこの時期になると、カラッとした高い空に太陽が眩しいダーラムを思い出します。

ダーラムはアメリカ南東部のノースカロライナ州の教育・研究施設が集中するリサーチトライアングル地区に位置する田舎町です。2003年からのダーラムでの主人の研究留学に妊婦だった私も同行していました。

産休・育休中の患者という立場でアメリカの医療現場を見ることができました。渡米早々、自分にとって相当難易度の高い「英語で健診の電話予約を取る」プロセスを踏んでやっと迎えた妊婦健診でしたが、錘で測定するポンド表示のアナログ体重計による体重測定、血圧測定、腹部触診だけのシンプルな診察は一瞬で終了し、2回だけ（アメリカでは妊娠初期と20週）のエコーを受ける機会を逃した私は出産直前の帰国まで子供の性別を知ることはできませんでした。日本で出産した長男と再渡米後に始まった2か月毎の小児科健診では、初回受診時点で予防接種スケジュールに遅れをとっていたのに加え、当時の日本よりも定期接種ワクチンが多いため（Hib、HBV、Pevnar、Varicellaなど）、健診のたびに4～5本同時に両手両足にワクチンを接種されたのには驚きました。

ダーラムは自然に恵まれ、青々とした木々に囲まれた自宅周囲でぬいぐるみのように小さな子ウサギやリスによく遭遇しました。市内に散在する林の中の公園で落ち葉や木の実を拾い、安全が配慮され柔らかいコルクで敷き詰められたプレイグラウンドに設置された大型遊具で子供は飽きることなく遊んでいました。最高気温が30度前後となる5月～10月下旬まで友人のアパートメントのプールを日替わりで転々とし、この頃が人生で最も日に焼けていた時期でした。

比較的温暖な気候ながら、自然災害に遭遇したこともありました。真冬に積雪・凍結のため我が家の周辺一帯は停電に見舞われ、真っ暗闇の中、マフラーにオーバーを着込み、蝋燭や携帯ガスコンロで3人寄り添って暖を取ったことや、超巨大ハリケーン、イザベルが上陸した際には木造平屋建ての我が家が飛んでいくのではないかと心配でテレビの気象情報に釘付けになったことは忘れられない出来事です。

狭い日本国内であっても旅行に行くことはままならない現在とは対照的に、オンオフがはっきりしているアメリカでは休日に何時間も車を走らせ遠出しました。奇しくもライト兄弟のノースカロライナでの初飛行からちょうど100年目に当たる年に、大西洋の海岸まで初飛行時の再現飛行機を見に行ったのを皮切りに、北はNYの自由の女神、ワシントンの桜見物、約50mも熱湯が吹きあがる間欠泉で有名なイエローストーン国立公園、子供の記憶には全く残っていないフロリダのDisney world、最後にはエメラルドグリーンサンゴ礁の海にかかるセブンマイルブリッジを渡ってアメリカ最南端のキーウェストまで足を運び、長男が写った写真を沢山撮りました。

帰国後は仕事、3人に増えた子供の育児、家事に忙殺され、長男と二人でゆっくり過ごす時間は皆無となりました。しかしながら、三つ子の魂百までの通り幼少時の生活環境のためか、長男は卒にはまらない自由気ままな性格で、地域の方々の助けもあってのびのびと育っています。そんな長男と過ごした異国での育児休暇の日々は、生涯現役医師であろう自分にとって貴重な人生の夏休みであり、あっという間に過ぎていく忙しい日常での心の糧となる思い出です。